

## 「越戸川の魚たち」

5月27日緑化まつりで市役所に初登庁

峯岸正雄

(和光自然環境を守る会 会長)

20年余り前、ヘドロがあちこちに堆積し悪臭が漂った越戸川は今や多くの生き物が棲む川に変身し、当会のスローガン“生き物と人と風景が溶け合う越戸川”の実現に一歩一歩近づいています。越戸川の水源は大部分が武蔵野大地からの湧水で、元来水質は良好です。市内下水道網の拡充整備、水辺再生工事、当会の地道な活動と市民の協力が相俟って、越戸川は生き返りました。毎年300名程度の市民が子供たちを中心に“夏休みジャブジャブ大会”や“越戸川まつり”等のイベント、近隣小学校の総合学習等を通じて歓声を上げながら越戸川の魚たちと接しています。

越戸川には現在アユ、コイ等の魚類やカニやエビ等の仲間(甲殻類)が併せて20種類余り棲んでおり、昆虫類のヤゴ(トンボの幼虫、ハグロトンボのヤゴが最多)も豊富です。アユは越戸川での産卵が確認されています。毎春東京湾から遡上する体長5cm程の稚魚が秋には20cm程度に成長、産卵して短い一生を終えます。卵から孵った仔魚は直ぐに東京湾に流下し、プランクトンを捕食して来春の遡上に備えます。因みに、アユはサケと異なり、生まれた川に帰る(母川回帰)能力はありません。越戸川で生まれたアユが翌年越戸川に遡上するケースは稀と思われます。最近国の絶滅危惧種に指定されたニホンウナギ、甲羅巾8cmに達する大きなモズクガニ、多数のハゼの仲間も棲息しています。

越戸川の魚たちが初めて市役所で展示されます。是非この機会をお見逃しなく。皆様のご来場をお待ちしています。

## 「カタクリ」失われゆく自生地」

高橋絹世

(NPO法人 和光・緑と湧き水の会 代表)

カタクリは、氷河期の生き残りの植物といわれ、東北地方や山地に広く分布しています。和光のような温暖な平地での生育は大変貴重で、自生にふさわしい特徴のある環境、水環境が備わっているからです。和光には湧水があり、年間通して水温が一定の温度17度を保ち夏でも湧水地近くは気温が周辺より低く保たれます。そのような環境を味方にして、北向きの湧水のある斜面林にカタクリは自生し、漆台地区や白子地区で群落が見られます。カタクリは開花までに7~8年かかり、落葉樹の葉が開く前の早春に芽を出し、花を咲かせ、樹林の葉が繁る5月ごろには種を付け、地上から姿を消します。夏から翌年の春まで休眠する「春の妖精」とも呼ばれる可憐な花を見せてくれます。



毎年湧き水の会では「カタクリ、ニリンソウを訪ねるエコツアー」を開催し、漆台から白子まで多くの方々を案内してきました。

しかしながら昨年漆台の斜面が開発されることになり、止むを得ず球根を掘り出し、ふれあいの森や特別保全緑地に移植を試みましたが、根は大変深く、掘り出して移植するのは

難しい作業です。さらに今年に入り、白子の富澤尚氏邸裏斜面林（写真）が開発されることになり、昨年同様移植をやむなく実施しました。氷河期を生き抜いてきた野草が、保護されずに急激に自生地を次々と奪われていきます。白子の斜面林は、一面にカタクリやキツネノカミソリが生育している地域ですが、植生調査が行われることなく、失われてしまうことは大変残念な結果です。

（2018年4月15日）

### 「桜」 芝 勝治

今年の桜は近年になく美しく感じました。この冬は寒さが厳しかったので桜の育ちが遅れ、それに伴い開花も遅れると思っていました。ところが今年は記録的にも非常に早い開花でした。恥ずかしながら桜についての私の知識不足でした。桜は散ってから葉から出るホルモンによって夏に花芽が出来、低い気温の中、一定期間眠りについて気温の上昇と共に一気に開花の準備を開始します。この期間の気温が非常に重要で開花まで2℃～12℃の間に800時間過ごす必要がある。2月に入ってから毎日最高気温を足し算して600度になると開花する。私と違って桜は寝ていても計算しているのか！！

桜にとっては厳しい冬の寒さが必要で暖冬は環境に良くないのです。四季のある日本は桜が咲く条件に合っているのです。

今、サクラ、ウメなどバラ科の樹木を食い荒らす、クビアカツヤカミキリが2012年に愛知で確認されてから関東や全国に広がりを見せているようです。専門家によらずに日本の桜は絶滅するでしょうと言っております。その前にクビアカツヤカミキリを絶滅させる策を考え、桜の美しさをいつまでも後世に残して行ってほしいものです。

「皆さん！

和光市の環境問題に関わってみませんか！」

高橋勝緒

これまで十数年、「環境づくり市民会議」が和光市の環境課のもとで運営されています。

「環境問題といっても広うござんす。」

緑地や湧き水など身近な自然を大切にしたいという問題から、生活に直結するゴミ処理問題、交通環境、そしてエネルギー問題など多様です。エネルギー問題は、太陽光発電の普及や省エネの他、地球規模の温暖化が、異常気象として身近な問題・対策として差し迫ってきています。

現在の市民会議のメンバーは、緑地や湧き水の保全などに関わっているメンバーが多く、多様な環境問題を議論し、市に提案するには人材不足です。子育てに関わる公園の環境、学校などの自然環境、区画整理、バス路線の利便性等の交通環境、エネルギーやゴミ問題など多様な課題に、市民目線で知恵を絞り、行政の施策に反映させていく必要があります。若いお母さん方の参加も極めて有用です。

年間10回ほどの定例会議の他、毎年2月には、市長や教育長が参加する率直な意見交換会も開かれています。

ぜひ、市民会議が多様な市民の声をまとめる場となるよう、参加して下さい。体験的に参加する機会も作っていきたいと思っています。お問い合わせは、和光市環境課まで！



市長、教育長、市民環境部長との意見交換会

## 「発心したときが菩薩」

佐藤妙泉

(NPO 法人和光・風の里)



和光市の皆さま、お元気ですか。高野山での暮らしは早くも2年が過ぎ、私はすっかりお山の住人となっています。2018年3月15日、高野山大学大学院修士課程を修了し、長い間の念願が実現した形です。子育て中にもかかわらず、40代半ばでやりたいことに集中できたことは奇跡でありお導きでもありました。この行動を支えてくださった方々には感謝してもしきれません。有難うございました。学んだことは惜しまず活かしていきたいと思っています。

さて高野山の地域づくりの仕事の任期はあと1年。この2年間は、お山で新刊本を発行できたり、主催したイベントが各種媒体で取り上げられたり、みなさまが喜んでくださり、弘法大師の「現在にも生きるお力」を感じた出来事もたくさんあります。今は5月の曼荼羅イベントの準備に奔走しています。秋にはこれを大きくした「密教カフェ」の開催を目指していますので、今度は紅葉のお山を体感しに、お誘いあわせの上いらしてください。

3年目は、真言僧として必要な100日間の修行にも取り組むつもりです。真言僧となれば、修行は一生続いていくものですが、晴れてお坊さんになれば、水と土、大気が清浄になり地球の環境が良くなること、すべて

の子どもたちが持ち前の力を生き活きと発揮して生きられることを祈りたいと本気で考えています。ダライ・ラマ法王は、「菩薩になろう」と発心したときがすでに「菩薩」であるとおっしゃいました。いつか念い(ねがい)が叶うと信じて活動を続けていきます。

## 「環境と人口」

新井昭夫

環境という言葉で思い起こすのは、団塊世代の私は、1972年のローマクラブの「成長の限界」です。この当時に、現在のままで人口増加や環境破壊が続けば資源の枯渇や環境の悪化によって100年以内(2072年までの間)に人類の成長は限界に達すると警鐘を鳴らしていました。

細かくは勉強していませんが衝撃的な警鐘だったとの印象があります。最も、その後、幾つかの新しい見方の提言をしているようですが。人は幾何級数的に増加するが、食料は算術級数的にしか増加しないとの有名な文がありました。

ところで、今の日本では人口に関して、2015年で1億2711万人が、約100年後の2110年には4286万人と約1/3に減少すると予想されています。その中で、65歳以上の高齢者の比率は2015年で26.7%、現役世代(15歳~64歳)との比率は高度成長期は11対1、2013年で2.5対1、2030年で1.8対1との予想です。そのような状況の下で、次世代の子や孫の事を思うと、豊かな自然環境を維持して、生きて行く為の経済活動も好循環が続いて欲しいものをつくづく思います。高齢者の一人に何が出来るか判りませんが、まずは足下を見つめながら、着眼大局、着手小局でしょうか。

「理化学研究所の自然」

岩崎洋樹  
(理化学研究所)

理化学研究所が東京・駒込から和光市（当時は大和町）に移転してから、50年が過ぎました。この間、113番元素「ニホニウム」の合成・発見に代表されるような世界最先端の研究活動を続けてこられたことは、和光市の皆様のご理解・ご協力の賜物と思います。誠にありがとうございます。

さて、我が理研は多くの自然に恵まれており、春には咲き乱れる花々や木々の芽吹きが暖かな季節の訪れを一層感じさせてくれます。特に、構内に植樹された仁科蔵王（にしなざおう）や仁科知花（にしなともか）といった、リングサイクロトロンという装置で作った重イオンビームをサクラの枝にあてて生み出された新種のサクラは、見て美しいだけでなく、背景に最先端の科学技術の一端を見ることが出来ます。また、夏はトンボやクワガタ、秋はイチョウやモミジの紅葉、冬はミズクが渡ってくるなど、四季を通じて多くの動植物を観察することができ、自然好きの私にはとても魅力的な職場です。

残念ながら、皆様にいつでもお越しく下さいという訳にはいかないのですが、3～4月にはサクラ見学のための構内開放を行っており、400本を超えるサクラが皆さんをお待ちしております。また、4月の科学技術週間には、研究室主催の体験イベントや研究者の講演などが盛りだくさんの一般公開があります。最先端の科学技術のみならず、理研に残る多くの自然に触れていただけるよい機会と思いますので、皆様、是非お越しく下さい！

「和光市に生育するカワモズク調査」

須貝 郁子  
(白子・大坂湧水林保全の会)

カワモズクの産地は湧水等の清澄な水域に限られる大変貴重な種で、市内に存在したことは和光市史にも記述されています。再確認された平成10年、カワモズクの産地としての湧水調査が行なわれましたが、カワモズクは同定できずに消失してしまいました。

こんな都市化した和光市に、カワモズクが生育していることはとても珍しいことですので記録に留めたいと思いました。平成20年に観察してきた妙典寺のカワモズクが「日本新産種」であることが分かり、和名をミヨウテンジカワモズクとされました。そこで市内の他の湧水地の様子が気になり、平成22年から市内のカワモズクを調査することにしました。

和光市には小さいけれどたくさんの湧水地があります。訪ね歩いた結果13箇所に6種が生育していることが分かりました。しかも年間を通じて生息していたり、数種が混生する様子も見られました。

カワモズクは褐色や鈍い緑色で目立たない存在ですが、顕微鏡で観察するととても美しく可愛い姿をしています。今回それらをまとめ『和光市における淡水産紅藻(カワモズク属)』として報告書を作成しました。多くの市民の方々に興味を持って頂けたらと思っています。

カワモズクは環境省のレッドリストに登録されており、中でもミヨウテンジカワモズクは和光市が国内唯一の産地です。「国内絶滅種」とならないことを切に願っています。

## 「利便と緑」

友國 洋

4月初め、新河岸川広域景観づくり連絡会のウォーキング会に参加し、平林寺を訪れた。新座駅から野火止用水を巡り総門まで、新座市観光課の市民ボランティアに案内して頂いた。野火止用水沿いから眺める平林寺裏山や農家の遠景は画に見る武蔵野である。帰り道、総門からバス通りの垣根に大きな伐り株が並び、平林寺境内林が見渡せる。桜の木が折れて車に被害を与えたので、咲くのを待たずに全部伐採されたとのこと、バス道も広げるらしい。

和光市の県営樹林公園でも近年は樹木の枯れがひどく、伐採跡は広場となって、シーズンにはバーベキュー客でにぎわう。武蔵野の樹林をつくる当初計画の行方は知らないが、隣接する東京都と練馬区の公園を合わせ、首都圏近郊の災害時避難場所としての機能を果たすなら、それも一案と思う。

小生の住む団地は築35年を超え、成長した樹木が課題になっている。駐車場の高木の枝葉や樹脂が車を傷める、住居の日あたりが悪くなる等の声があって伐採・強剪定されてきている。クスノキ、ケヤキ、ヒマラヤスギ、メタセコイヤ等々高木中心に約170本が市の保存樹木に登録されているが、昨年は市内には珍しいというラクウショウが伐採された。植栽管理にかかる費用は小さくない。

隣のホンダの高木が、近年すっかり伐られたのを見ていたら、いつの間にか中庭の桜も伐られ、4月に社員子女用の保育園がオープンした。待機児童対策、働き方改革は国民的課題であり喜ばしい。

いずれも、エコノミーとエコロジーのバランスが大事で、両者をトレードオフの関係にしない知恵が求められる。

## 「再生エネルギー主力化提言に思う」

東 亮太

(埼玉県地球温暖化対策西部地域協議会連絡会)

4月11日の新聞は、経産省有識者会議が、2050年に向けて長期的エネルギー戦略の提言案をまとめたと伝えています。そのポイントは以下です。①再生可能エネを、経済的に自立し脱炭素化した主力電源を目指す。②再生エネは、コストが割高かつ発電量が不安定なので、蓄電池の性能向上など技術開発や送電網の増強に着手する。③原発への依存度を低減する政府方針は可能な限り堅持する。

新聞はこれに対して、再生エネの具体的な発電割合を示していない。原発の新設、増設に触れておらず、位置づけもあいまいと指摘しています。

政府は、2016年11月4日に発効した地球温暖化対策の国際的な枠組み(パリ協定)に基づき、2050年までに温室効果ガスを2013年比80%削減の目標を掲げています。記事は、他の主要国の戦略としてドイツは原発に頼らない、米英は再生エネと原発の比率を上げると紹介していますが、2017年6月1日、米国はパリ協定からの離脱を表明し今後の成り行きが不安定です。

日本では、太陽光発電は頭打ちで、風力発電、地熱発電が期待されていますが、いずれも立地問題があって簡単には行かないようです。

そのような中、東京電力福島第一原発事故から7年を経て、原発の再稼働がそろりと動き出しているのが懸念されるところで、今後、再生エネの技術開発、火力発電の高性能化を期待するとともに、省エネの手綱は緩められないと思うものです。

(参考:2018年4月11日 読売新聞朝刊)

## 「和光市の地球温暖化対策」

和光市市民環境部環境課

本市では、平成29年3月に策定した「和光市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）【改訂版】」に基づき、平成32年度までに市民1人当たりの二酸化炭素排出量を平成21年度比25%削減する目標を掲げ、市民、事業者、市等が市域全体で目標の達成に向けて取り組んでおります。

二酸化炭素排出量削減に向けた基本施策としましては、再生可能エネルギーの普及促進、省エネに配慮したライフスタイルの推進、低炭素型の交通体系の推進、循環型社会の構築、都市緑化等の推進、環境学習・情報提供の充実の6つの施策を掲げており、これらの施策を推進することにより、温室効果ガス排出量の削減に努めていきたいと考えております。

また、今回の計画は、上記の温室効果ガス排出量削減に向けた「緩和策」だけでなく、地球温暖化による悪影響に対応するための「適応策」についても踏み込んだ内容となっております。

本計画の進行管理に当たっては、計画の策定（Plan）－施策展開（Do）－排出量・対策効果の把握（Check）－フィードバック（Action）のPDCAサイクルにより、地球温暖化対策の継続的な改善と推進を図っていくとともに、環境づくり市民会議をはじめとする各環境団体や市民の皆様からアイデアをいただきながら、地球温暖化対策に取り組んでまいります。

環境づくり市民会議はどなたでも歓迎です。会議は原則として毎月1回、市役所会議室で開催しています

問い合わせ：事務局（和光市環境課）

電話 048-464-1111

## イベントニュース

### あゆの放流会

5月6日（日）11時～

わくわくパーク

和光市立第五小学校横）

参加費100円（保険代）

共催：白子川と流域の水環境を良くする会

埼玉県南部漁業協同組合

### 緑化まつり 2018

5月26日（土）～27日（日）

10時～15時

和光市市民文化センター  
展示棟、市民広場、小ホール

主催：和光市

### （編集後記）

戦後、日本は歴史的復興によって、世界に冠たる長寿国となった。人口減少が問題となっているが、地球的視点で考える必要がある。人類の活動が地球の持続可能性を脅かしている。先進国一人あたりのエネルギー消費量は桁外れに大きい。日本も例外ではない。地球環境ファーストは、人類の課題であり一人ひとりの課題でもある。

（友國）